

制作納像 寺院や一般の施主の依頼で創作仏像を

愛知県岡崎市 石彫家・長岡和慶師

五劫思惟阿弥陀如来座像を納像

神奈川県浄土宗・本真寺に

神奈川県藤沢市の浄土宗・本真寺（齋藤良典住職）境内に令和四年一月、長岡師制作による「五劫思惟阿弥陀如来座像」が納像された。

齋藤住職は自身のお眼鏡にかなう仏像を見つけたら、その悲願がいつに成就した。折しも二〇二四（令和六）年に浄土宗開宗八百五十年を迎えることから、その慶讃記念事業として建立されたもの。

齋藤住職に長岡師を紹介したのは、兵庫県神戸市の慶光寺・日下部謙旨住職。長岡師が以前、同じ五劫思惟像（浄名寺型・二〇二〇年四月）を納仏した浄名寺（愛知県西尾市）副住職の松原鈔蓮さんと齋藤住職を引き合わせ、昨年七月、三人で長岡師の工房を訪ねたのが始まりだった。

齋藤住職によると、五劫思惟像の建立は十年前から考えていたことで、これまでに寺院や石材店、石材産地などを度々訪ね手がかりや情報収集に努めたが、「自分の求める仏師」に出会えなかったという。

今回の来訪もその情報収集が目的だったが、長岡師から過去に制作した二体の五劫思惟像（別の一体は三樹院型・二〇一八年八月制作）について、仏師としての信条やこだわりのほか、寺院や寄進者の想いなどを聞くうちに大きな声で「決めました」と発すると、少し間を置いてから長岡師に「お願いします」と頭を下げたそう。長岡師も「よろしくお願いします」と返答したという。

後で判明したことは、本真寺を創建したのは（創建時の名称は慈教庵、日本のマザーテレサとも称された）現本真寺（愛知県西尾市吉良町出身の尼僧）だった。同尼が地元吉良町に創建した自坊・徳雲寺には、長岡師が以前に制作した重合掌地藏菩薩座像（高さ二尺）が建立されており、まさしく仏様が導いてくれたご縁ともいえるだろう。

見積もり後、齋藤住職から正式な制作依頼があり、花沢石（探掘元）愛知県豊田市（株）鈴木石材の原石を発注し、工房へ届けてもらった。

昨年八月三十一日より制作し始め、十二月一日に完成。五劫思惟像は、螺髪と肉髻が肥大化した大きな頭髪が特徴で、「無量寿経」に「阿弥陀仏が法蔵菩薩の時、すべての人々を救おうと五劫という長い時間、ひたすら思惟をこらし、四十八願をたて、修行を重ね、阿弥陀仏となられた」とある。本体と一つ石の上蓮華は三段重ねの八重蓮華とした。さらに台座上下（台座は反花台）を制作し、岡崎市内の（有）三矢刻字店で反花下に如来名を刻んでもらう。

現地への搬入作業は今年二月二十一日で、開眼入魂式は春彼岸の中（三月二十一日）に行なわれた。檀徒ら多数の参列者が見守る中、齋藤住職が導師を務め、日下部住職も式衆の一人として出仕した。長岡師には、浄土宗総本山知恩院の大僧正（浄土門主）・伊藤唯真名の感謝状が贈られた。

が建立されており、まさしく仏様が導いてくれたご縁ともいえるだろう。見積もり後、齋藤住職から正式な制作依頼があり、花沢石（探掘元）愛知県豊田市（株）鈴木石材の原石を発注し、工房へ届けてもらった。

制作し始め、十二月一日に完成。五劫思惟像は、螺髪と肉髻が肥大化した大きな頭髪が特徴で、「無量寿経」に「阿弥陀仏が法蔵菩薩の時、すべての人々を救おうと五劫という長い時間、ひたすら思惟をこらし、四十八願をたて、修行を重ね、阿弥陀

仏となられた」とある。本体と一つ石の上蓮華は三段重ねの八重蓮華とした。さらに台座上下（台座は反花台）を制作し、岡崎市内の（有）三矢刻字店で反花下に如来名を刻んでもらう。

現地への搬入作業は今年二月二十一日で、開眼入魂式は春彼岸の中（三月二十一日）に行なわれた。檀徒ら多数の参列者が見守る中、齋藤住職が導師を務め、日下部住職も式衆の一人として出仕した。長岡師には、浄土宗総本山知恩院の大僧正（浄土門主）・伊藤唯真名の感謝状が贈られた。

いた頃、施主から、建立の雲中から飛ぶような姿で表し、あまり目立たず、それでいて存在感を放つように表現しました」と。原石は愛知県産の花沢石（豊田市の株）鈴木石材が採掘）を使用。

また、同彫刻の背面には施主が建立の経緯などをまとめた「建立の銘」（八百字以上）愛知県岡崎市上佐々木町の（有）三矢刻字店で彫刻）があらわされており、題名やお題目などを刻んだ基礎台座（ゲタ足型）を二つ制作して、完成となった。

開眼法要は去る六月十日、施主の親族ら多数が見守る中、安城市の大乗寺・山口常賢住職が導師を務め、厳修された。

開眼法要は七月十日。当日は同寺のご本尊・十一面観音の四萬六千日の縁日でもあり、関係者ら多数が見守る中、今井住職を導師として、四萬六千日折願法要とあわせて新型コロナウイルスの早期終息を願って疫病退散祈願も行なわれた。

創作 「五劫思惟阿弥陀如来と童六地藏菩薩」建立

安城市内の施主・私有地に

このほど、新しい構図の創作「五劫思惟阿弥陀如来と童六地藏菩薩」が、愛知県安城市内の施主の私有地に建立された。施主である篤信家の女性が、34年前に農作業中に亡くなった夫の菩提を弔うために、長岡師に制作を依頼した。

おける時間の最長単位。四十里四方の岩山を天女の羽衣で百年に一度撫で、岩山を完全に磨きつくすのに要す時間を一劫とし、その五倍が五劫とされるという。

また、建立地の近くに小学校があり、通学路や散歩道にもなっていることから、小鳥ではなく「森の物知り博士」「森の哲学者」として親しまれていく幸運の鳥「フクロウ」を表すことにした。

「雲中菩薩に如来や地藏菩薩を助ける脇侍的な役割を持たせました。また半身のフクロウは上方を飾ることにした。

開眼法要は去る六月十日、施主の親族ら多数が見守る中、安城市の大乗寺・山口常賢住職が導師を務め、厳修された。

開眼法要は七月十日。当日は同寺のご本尊・十一面観音の四萬六千日の縁日でもあり、関係者ら多数が見守る中、今井住職を導師として、四萬六千日折願法要とあわせて新型コロナウイルスの早期終息を願って疫病退散祈願も行なわれた。



浄土宗・本真寺に納像された五劫思惟阿弥陀如来座像



安城市内の施主・私有地に建立された五劫思惟阿弥陀如来と童六地藏菩薩



三樹院の手水舎に建立された十一面観世音菩薩立像

法蔵菩薩で、その菩薩時代、衆生を救うため四十八願を立て、五劫の間ただひたすら思惟を凝らして過酷な修行に励み、満願成就の末、阿弥陀如来になった（髪

の毛がぐるぐるに巻き上がり、螺髪が肥大化したのはそのため）と長岡師の「五劫」は仏教に

「宝珠」を持たせたこと。これは礼拝者への救いとして表したという。

神奈川三浦市の浄土宗三樹院（第十九世・今井正純住職）からの依頼で、同寺院内の手水舎用に制作した「十一面観世音菩薩立像」が建立された。

同寺にある安山岩製の手水鉢は、江戸中期の一七二六（正徳六）享保元年、信徒らによって寄進されたもので、同地区では最古の手水鉢という。清水を手水鉢に引き、その霊水で手を清めてから参拝するのが習わしとされ、従来の手水鉢は龍の口から水を落とす仕組みだったが、劣化したために修繕する必要があった。「交換することも考え

ました。当山の本尊で

れた人は煩惱が消え去るといわれている」と長岡師。水瓶の中心部にドリルで長さ30センチほどの穴を開けて、そこにステンレス製のパイプを挿入してホースに繋ぐことにした。

また、今井住職から像容に関するリクエストがあった。それは一九九〇（平成二）年、長岡師が延暦寺の山・龍珠院に建立した十一面観音像で、長岡師の自著「長岡和慶の世界」（インデックス発行）に掲載されている渾身の作の一つだった。そのため、それを参考にしながら水瓶で水を注ぐ十一面観音のデザインを描き、今井住職の承諾を得てから、花沢石（探掘元）愛知県豊田市（株）鈴木石材の原石を発注し、

◆長岡和慶師
愛知県岡崎市東牧内町字堤外60-1
TEL 0564-3212335
E-mail: mite33n11@yahoo.co.jp